

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
仏教学部	禅学科	夜・通信	20		16	36	13	
	仏教学科	夜・通信			16	36	13	
文学部	国文学科	夜・通信	20		16	36	13	
	英米文学科	夜・通信			12	32	13	
	地理学科地域文化研究専攻	夜・通信			14	34	13	
	地理学科地域環境研究専攻	夜・通信			14	34	13	
	歴史学科日本史学専攻	夜・通信			16	36	13	
	歴史学科外国史学専攻	夜・通信			16	36	13	
	歴史学科考古学専攻	夜・通信			16	36	13	
	社会学科社会学専攻	夜・通信			12	32	13	
	社会学科社会福祉学専攻	夜・通信			35	55	13	
	心理学科	夜・通信			8	28	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	6		28	34	13	
	商学科	夜・通信			32	38	13	
	現代応用経済学科	夜・通信			28	34	13	

法学部	法律学科フレックスA	夜・通信	20		20	40	13	
	法律学科フレックスB	夜・通信	2		20	22	13	
	政治学科	夜・通信	20		10	30	13	
経営学科	経営学科	夜・通信	14		12	26	13	
	市場戦略学科	夜・通信			12	26	13	
医療健康科学部	診療放射線技術科学科	夜・通信	6		43	49	13	
グローバル・メディア・スタディーズ学部	グローバル・メディア学科	夜・通信	20		20	40	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>全科目について作成されるシラバス内に、「実務経験がある教員による授業科目」という項目を設けており、該当する科目はこの欄に実務経験がある教員による授業科目である旨記載する。シラバスは大学ホームページ上にて学外を含めて公表している。</p> <p>駒澤大学ホームページ> (シラバス (講義内容))</p> <p>※検索ボックスに「実務経験」と入力して検索することで、実務経験を有する教員のシラバスが表示される。</p> <p>https://www.komazawa-u.ac.jp/~kyoumu/syllabus_html/index.html</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由)
-

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/official.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	曹洞宗総務部長	2018. 4. 1～ 2022. 3. 31	①組織運営体制への チェック機能 ②経営計画の策定
非常勤	曹洞宗宗議会議員	2018. 4. 1～ 2022. 3. 31	①組織運営体制への チェック機能 ②経営計画の策定
非常勤	曹洞宗宗議会議員	2018. 10. 27 ～2022. 3. 31	組織運営体制へのチ ェック機能
非常勤	他大学名誉教授	2018. 4. 22～ 2022. 4. 21	教学運営全般の チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全ての授業科目について、前年度の11月に各教員に対し、「シラバス作成ガイド」に基づいたシラバス作成を依頼している。シラバスには、授業概要・到達目標(ねらい)・授業スケジュール・準備学修・成績評価の方法などの項目が含まれている。 作成されたシラバスは各学部学科主任等または各研究科の専攻主任による第三者チェックを経た上で、毎年年度開始直前の3月末に本学ホームページで公開され、学生ポータルサイトでも履修登録開始まで閲覧可能となる。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>駒澤大学ホームページ> (シラバス(講義内容)) https://www.komazawa-u.ac.jp/~kyoumu/syllabus_html/index.html KONECO(駒澤大学学生向けポータルサイト)(要ログインID) https://koneco.komazawa-u.ac.jp/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 次年度シラバス作成時に、全教員宛に配付する「シラバス作成ガイドブック」にて、成績評価方法(項目と割合)を具体的に記述するよう指示している(全ての科目について入力必須)。固定表示された「試験・レポート・小テスト・平常点」に加えて他に4項目まで追加でき、必要な評価項目にのみ割合を入力して合計を100%とする。その配分に則り教員は成績評価を行う。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価において、GPA等の客観的な指標は、履修要項・大学HP・学生ポータルサイト等に掲載している。 ・成績は、各科目を「S A B C F 空欄 T」によって評価され、GPAが予め定められた方法によって算出される。 ・GPA算出式については、以下の通り設定している。 $\frac{S \text{ 修得単位数} \times 4.0 + A \text{ 修得単位数} \times 3.0 + B \text{ 修得単位数} \times 2.0 + C \text{ 修得単位数} \times 1.0}{\text{履修した科目の総単位数}(F \cdot \text{評価のない科目を含むが評価 T(認定)は含まない})}$ 成績の分布について、厳正化を図るため、ガイドラインにて、Sが5%、Aが30%程度と目標値を設定しており、成績評価登録時に科目担当教員へ分布を開示している。また、学部単位の成績分布については、教務部委員会にて審議されている。</p>	

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>履修要項（冊子） 駒澤大学ホームページ>成績について https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/undergraduate/test-result/examination-result.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 以下の通り卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、ホームページや履修要項で公開している。さらに、学生の修得単位数等が記載された判定資料を元に、3月各学部教授会において、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に鑑みて成績ならびに卒業の判定を行っている。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 駒澤大学は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学部学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>（DP1）建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>（DP2）幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>（DP3）情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。</p> <p>（DP4）コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルを修得している。</p> <p>（DP5）専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p> <p>（省略） 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表</p>	

【仏教学部】

仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができるとする駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者にわかりやすく発表できる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【文学部】

文学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの力を身につけ、所定の期間在学し、各学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

建学の理念を踏まえ、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

各学科が求める専門的知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸問題に多角的な観点からの確に対応できる。その際、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しようと試み、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけるとともに、問題の発見や問題の解決の前提となる効果的な表現力・発信力を身につけている。また、国内外の多様な資料やデータを解析し、解釈や評価を下す能力がある。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文等の作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した各専門分野の知識・技能を活用し、豊かな創造力と表現力を持って社会の発展に貢献することができる。また、国際的視野に立って、直面する現実社会の中で、知識・技能を活かすことができる。

【経済学部】

経済学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学部学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【法学部】

法学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を、法律学および政治学それぞれの分野に即して身につけ、所定の期間在学し、各学科の定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、主体的に社会の発展に貢献することができる。

(DP2) 多様性理解と協働力〔理解、多様性、協働性〕

法学・政治学分野の専門知識はもとより、社会、人文、自然、ライフデザイン、様々な異文化に関する多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しつつ、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、また相手を思いやる態度を持ちながら他者と主体的に協働することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔知識、技能、思考力、判断力〕

現代社会における法や政治・行政に関する諸問題について、多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考し、問題発見や問題解決に解決する方策を効果的に発信することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔理解、表現力〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

法学部の学生として、法と政治を基軸に社会・経済を見る眼を養い、体系的に修得した法学・政治学分野の知識・技能・技術を活用する能力を持つとともに、倫理観と社会的責任を身につけ、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【経営学部】

経営学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経営学を中心とする専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

経営を中心とする情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文などの文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、相手の状況を理解した上で自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまで修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【医療健康科学部】

医療健康科学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部・学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、医療人としての強い責任感と豊かな人間性を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

社会に関する幅広い知識と、専門分野である医用放射線分野における確かな基礎学力と専門知識・技術の知識を身につけ、他の医療スタッフや患者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な医療情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、ICT（情報通信技術）を活用し、問題を発見し問題解決に繋がるアイデアを出し、自ら行動することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文等の内容理解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他の医療スタッフと主体的に協働することができる。また、外国語（英語）の確かな運用能力を有している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

診療放射線技師を目指すものとしての、診療画像および医用放射線科学領域における専門分野の知識・技能・技術を習得し、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

【グローバル・メディア・スタディーズ学部】

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

本学部の学問的基盤となる関連分野（経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学）の科目を学際領域的、多重領域的に履修し、新たな知の創造に結びつける力を身につけ、グローバル市民として多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

理論と実践の両面から、グローバルな課題を見出して解決への道筋を追究するための情報分析力、論理的思考力、そして問題解決能力を備えている。

<p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 十分な語学力、とりわけ、実質的なグローバル・コミュニケーション・ツールである英語を使いこなす力を備え、グローバルな環境において、レポートや論文等の文章読解・作成、およびプレゼンテーションを行い、自らの考えを論理的かつ明確に伝え、他者と主体的に協働する能力を備えている。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 本学部の8つの専門学問領域に基づいてメディアとコンテンツの本質を理解し、地球規模の問題解決に資する研究・分析・提案の能力を身につけている。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	①駒澤大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html ②駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html ③履修要項 在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	駒澤大学
設置者名	学校法人駒澤大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
収支計算書又は損益計算書	ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
財産目録	ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
事業報告書	ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
監事による監査報告(書)	ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 事業計画書 対象年度: 2019年度)
公表方法: https://www.komazawa-u.ac.jp/hojin/about/financial-report.html
中長期計画 (名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/self-inspection.html

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法: (大学基準協会 HP) https://www.juaa.or.jp/accreditation/university/result_2013.html (大学 HP) https://www.komazawa-u.ac.jp/topics/2013/0401-1046.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 仏教学部</p> <p>教育研究上の目的 公表方法： ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html) ・履修要項 在学生に教務部にて 1 人 1 冊必ず配付している</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学部は、建学の理念である「仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神」に則って教育を行う中心的学部であり、それらを体系的に多角的視野から学び、仏教による人間教育を行なう。それらをその後の多様な人生の中に自ら活かし、広く社会に発信することができる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 公表方法： ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html) ・履修要項 在学生に教務部にて 1 人 1 冊必ず配付している</p>
<p>(概要)</p> <p>仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができるとする駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT (情報通信技術) をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者に</p>

わかりやすく発表できる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

(省略)

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

教育課程の編成及び実施に関する方針

公表方法：

・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)

積尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の基礎的な体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。また、教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。また、「坐禅」で、自ら坐禅を実習することによって、その意義と実践方法を身につける。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。
- 6) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。

2. 教育方法

- 1) 1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各分野・領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる坐禅を必修科目として実習する。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナー、仏教学セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。それぞれの学科において、さらに専門的な自らの研究課題を持ち、必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅰを継続してより深める演習Ⅱと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

- 1) 入学生に対しては、入学前教育（対象者のみ）として、仏教や禅に対する関心を持ち、基礎教養を身につけてもらうために、仏教学部で指定する推薦図書の中から2点を選び読書感想文を提出してもらい、添削・評価している。
- 2) 在学生に対しては、各履修科目の各種試験による評価（GPA評価等）により学修成果の評価・測定を行い、取得単位数によって進級制限を設け、学生への反省と奮起を促している。
- 3) 卒業生に対しては、学びの集大成として卒業論文の作成を課し、学修成果の評価・測定を行っている。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

<p>(概要)</p> <p>仏教学部では、専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につけた上で、より専門的にその分野の知識・能力を深めるため、禅学科・仏教学科一律に入学者選抜を行い、3年次進級時において、学科を選択する方式をとっている。</p> <p>仏教学部では、この前提において、受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。</p> <p>1. 仏教学部の求める学生像</p> <p>(AP1) 仏教学部では、広い視野に立ちながら多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身につけている学生を求めている。一般入試においては、教科試験によって評価し、推薦入試においては、調査書・書類審査・筆記試験等によって評価する。〔知識、理解、技能〕</p> <p>(AP2) 仏教や禅を学ぶ強い意欲を持っていることを基準として各種の推薦入試を実施する。特に、仏教や禅を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦入試を実施する。高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲ある学生を求めている。小論文・面接等によって学習意欲と学習能力を確認し評価する。〔意欲、関心、態度〕</p> <p>(AP3) 仏教学部のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる思考力と文章力、大学生活に適応できるコミュニケーション能力を有し、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔思考力、判断力、表現力〕</p> <p>(AP4) 仏教学部では、世界的に関心を持たれている仏教や禅の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔主体性、多様性、協働性〕</p>

<p>学部等名 文学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要)</p> <p>文学部は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則って、人間に関わる人文諸学の智に基づき、人間の本質の理解および社会の諸問題の解決に取り組むことで、社会に貢献できる幅広い教養と専門性を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>その理念・目的を達成するために、6学科（国文学科・英米文学科・地理学科・歴史学科・社会学科・心理学科）を置き、さらに地理学科には2専攻（地域文化研究専攻・地域環境研究専攻）、歴史学科には3専攻（日本史学専攻・外国史学専攻・考古学専攻）、社会学科には2専攻（社会学専攻・社会福祉学専攻）を置き、深く広い人文教養によって、人間を多角的に考察できる多彩な構成となっている。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 公表方法： ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html) ・履修要項 在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要) 文学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの力を身につけ、所定の期間に学び、各学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 建学の理念を踏まえ、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 各学科が求める専門的知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸問題に多角的な観点からの的確に対応できる。その際、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しようと試み、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけるとともに、問題の発見や問題の解決の前提となる効果的な表現力・発信力を身につけている。また、国内外の多様な資料やデータを解析し、解釈や評価を下す能力がある。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 レポートや論文等の作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 体系的に修得した各専門分野の知識・技能を活用し、豊かな創造力と表現力を持って社会の発展に貢献することができる。また、国際的視野に立って、直面する現実社会の中で、知識・技能を活かすことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法： ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html) ・履修要項 在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要) 文学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの力を身につけるために必要な教育プログラムを構築し、教育課程の体系性をわかりやすく明示して、4年間の教育課程を編成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方法）を策定し、これに基づき学生の学習成果の可視化を行い、到達度を適正に評価し、教育の改善につなげられる仕組みを構築して、教育課程や教育方法の見直しを行う。 教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。</p>

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自律的で自主的な学修態度を身につけるために「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 全学共通教育科目を通して、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、各学科の専門知識や技能の習得ばかりに偏らないようにする。
- 4) 専門教育科目では、各専門分野の知識を体系的に学習できる講義科目、自らが主体的に研究を進める機会となる演習科目、専門的な技能の習得を目指す実験・実習科目を配置する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 専門科目を学ぶための基礎科目を1年次に必修科目として配置し、学年の進行に合わせて段階的な学修の積み上げを可能とする科目構成とする。
- 3) 人間や社会、文化について考究するとともに、問題と見解を的確に表現できる人材の育成を目指す。そのために、少人数制の演習科目の充実を図り、実践的に学ぶ環境を整え、プレゼンテーション能力の開発を重視する。
- 4) 「卒業論文」を重要科目として位置づけており、指導教員の担当する卒業演習に参加し、学生がお互いに切磋琢磨する環境の中で研究を深め、4年間の集大成としての卒業論文の作成を指導する。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)

文学部は、6つの学科で構成されており、学生は、これらの領域で行われる教育・研究を通して、多様な観点から、人間や社会、文化について深く学び、また、教養を広め、感性を養い、自己の考えを的確に伝える表現力を磨くことになる。文学部は、既存の概念に縛られずに研究対象と向き合い、他人との討議によって、異なる意見にも耳を傾け、自己の考えを改めて謙虚な姿勢で問い直せる知的生産力の高い人材の育成を目指す。私たちが入学を期待するのは、以下のような学生である。

- ・鋭い感性を磨き、幅広い教養を身につけたい人。
- ・人間や社会、文化に関する問題を深く探求したい人。
- ・論理的な思考力、柔軟な発想力、的確な表現力を養いたい人。

文学部の求める学生像

(AP1) 高等学校の基礎的な学力を身につけていること。特に「国語」、「英語」の基礎的な学力を有している。〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、人文学に関心があり、文学部で4年間学んだ知識・経験を社会に出てから活用したいという意欲を持っていること。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 社会の出来事について問題意識を持ち、変化し続ける社会状況を読み解き、その考察した問題に関して他者にわかりやすく説明し、意見交換ができる。〔思考力、判断力、

<p>表現力] (AP4) 国内外の文化・社会の違い、価値観の違いについて理解し、他者を尊重しつつ、主体的に協働して物事を進めることができる。〔主体性、多様性、協働性〕</p>
<p>学部等名 経済学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・ 駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修要項 <p>在学生に教務部にて 1 人 1 冊必ず配付している</p> <p>(概要)</p> <p>転換期を迎える世界経済の中で、経済学に基づいた学びを実践し、理論的な基礎知識からビジネス・地域社会の第一線で活かせる応用力までを身につけた新しい時代の経済社会を担う人材を育成する。社会や歴史についてしっかりと考えるための知識と知力を基礎に、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・ 駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修要項 <p>在学生に教務部にて 1 人 1 冊必ず配付している</p> <p>(概要)</p> <p>経済学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学部学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経済学の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT (情報通信技術) をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、これを発信、実践することができる。</p>

<p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまでを修得している。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 体系的に修得した専門分野の知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法： ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html) ・履修要項 在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要) 経済学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために、以下の方策をとる。全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す、駒澤大学による「駒澤人育成基礎プログラム」を基礎としつつ、経済学部・学科の専門教育科目と密接に関連づけて接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリング（順位づけ）や履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、経済学部として教育課程や教育方法の改善を図る。 教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。</p> <p>1. 教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。 5) 専門教育科目では、経済学を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、将来志望する業界や進路を念頭に置いたコース制によって専門科目の体系的な学習を促進する。さらに、各学科で将来の職業選択に関連する資格取得のためのコースを設置し、学外講師による最新のビジネス動向やコミュニティ経済を支えるさまざまな組織の動向を知るための講義を設置する。

2. 教育方法

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、経済学を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、将来志望する業界や進路を念頭に置いたコース制によって専門科目の系統的な学習を促進する。さらに、各学科で将来の職業選択に関連する資格取得のためのコースを設置し、学外講師による最新のビジネス動向やコミュニティ経済を支えるさまざまな組織の動向を知るための講義を設置する。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テスト（ペーパーテスト等の直接評価により学生の知識・技能・態度等を測定）の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う

3. 評価

経済学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、機関レベル（大学）、教育課程レベル（学部・学科）、科目レベル（個々の科目）の3段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

入学者の受け入れに関する方針

公表方法：

- ・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

- ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

- ・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)

経済学部は、これまでの学習経験や関心のある分野について知識・能力を深めていくこと、自らの将来の目標に向けて知識能力を高めていくことなど、駒澤大学に入学して何を学びたいか何をするかなどの目標や意欲を持った入学者を求めている。また、入学希望者に対しては、幅広い教養と専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとする、駒澤大学の教育の理念を理解した上で出願することが望まれる。経済学部では、こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 経済学部の求める学生像

経済学部は、以下の条件を満たす学生を受け入れる。

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。
〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、経済学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

学部等名 法学部

教育研究上の目的

公表方法：

・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)

法学部は、建学の理念に則り、社会的実践と深く結びついた学問分野である法律学と政治学の修学を通じて、現代社会の多様性に対する感性と理解力、また社会の中で必然的に生じる法的・政治的問題に対処する情報分析力と実践的な問題解決力を養成し、そうした能力を支える幅広い教養を培う。これによって、将来の職業生活を通じて地域社会さらには国際社会に対し責任をもって貢献できる人材を育成するための「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学の教育の理念とする。

卒業の認定に関する方針

公表方法：

・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)

法学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を、法律学および政治学それぞれの分野に即して身につけ、所定の期間在学し、各学科の定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、主体的に社会の発展に貢献することができる。

<p>(DP2) 多様性理解と協働性〔理解、多様性、協働性〕 法学・政治学分野の専門知識はもとより、社会、人文、自然、ライフデザイン、様々な異文化に関する多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しつつ、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、また相手を思いやる態度を持ちながら他者と主体的に協働することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔知識、技能、思考力、判断力〕 現代社会における法や政治・行政に関する諸問題について、多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考し、問題発見や問題解決に解決する方策を効果的に発信することができる。</p> <p>(DP4) コミュニケーション能力〔理解、表現力〕 レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 法学部の学生として、法と政治を基軸に社会・経済を見る眼を養い、体系的に修得した法学・政治学分野の知識・技能・技術を活用する能力を持つとともに、倫理観と社会的責任を身につけ、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法： ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html) ・履修要項 在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要) 法学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために「駒澤人育成基礎プログラム」（全学共通科目）と法学部各学科の専門教育科目をシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系的性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリングや履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し教育課程や教育方法の改善を図る。 教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。</p> <p>1. 教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語」に関する科目を開講する。 「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。（「実用英語」では、「聞く」「話す」に重点を置いた英語教育を行う。）このほか、日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。 4) 社会、人文、自然、ライフデザイン分野において、多角的な知識と深い教養を体系

的に身につけられるように科目を配置する。

- 5) 演習と講義科目を効果的に組み合わせた専門教育科目の体系的履修制度を通して、法と政治を基軸に、社会・経済を見る眼を養い、論理的思考力、分析力、問題解決力などの修得を促す。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 教養教育科目に配置されている「新入生セミナー」では、法律学科での学修につながる問題の発見・分析能力、論理的思考力、読解力、表現力等の基礎的学修能力を身につける。
- 3) 演習科目（ゼミ）においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を心がける。事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則少人数制による担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標に基づく全学的な検証を行い、教育内容や教育方法の改善に積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

法学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、機関レベル（大学）、教育課程レベル（学部・学科）、科目レベル（個々の科目）の3段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

- ・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

- ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

- ・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)

法学部では、法学の基本となる公民、歴史、地理などの社会科系科目に特に興味があり、それらの科目の基礎学力を有するとともに、主体的に問題を発見、分析・検討することのできる能力の習得に関心がある学生を求める。特に、次のような学生の入学を期待する。本学部では、こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 法学部の求める学生像

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕

<p>(AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、法学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕</p> <p>(AP3) 現代の地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕</p> <p>(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、他者と主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕</p>

<p>学部等名 経営学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要)</p> <p>環境変化に直面する企業や社会において、情報を収集・分析・統合しつつ、自ら課題を発見し、適切かつ迅速に解決できる人材を養成する。そのために、経営に関わる理論的・実践的研究の深い知識、仏教と禅による人間観とグローバルな視野による広い教養を礎に、合理的な分析とチームによる問題解決を実践できる能力を陶冶する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、主体性、多様性、協働性〕 人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経営学を中心とする専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 経営を中心とする情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じてICT(情報通信技術)をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がる</p>

アイデアを出し、意思決定することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕
 レポートや論文などの文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、相手の状況を理解した上で自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまで修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕
 体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
 公表方法：
 ・駒澤大学ホームページ
 (<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)
 ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI
 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能
 (<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)
 ・履修要項
 在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)
 経営学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために、下記の教育課程を編成し実施する。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、経営に関わる諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上に企業経営を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。また、各学科には専門科目を体系的に学ぶことができるコースを設置する。加えて、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。
- 6) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。
- 7) 理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した経営に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3) 演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5) 教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

経営学部では、駒澤大学全体の評価方針に基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、教育課程レベル（経営学部・経営学科、経営学部・市場戦略学科）、科目レベル（個々の科目）の2段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)

経営学部では、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心をもち、高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を身につけた入学者を求めている。また、駒澤大学の教育理念では、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとしている。入学希望者に対しては、この教育理念を理解した上で出願することが望まれる。本学部では、こうした理解をもった受験生から入学者を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 経営学部の求める学生像

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。また、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識をもつ。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断

<p>力、表現力]</p> <p>(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲をもつ。〔主体性、多様性、協働性〕</p>
<p>学部等名 医療健康科学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p> <p>(概要)</p> <p>医療健康科学部は診療放射線技師を養成する学部である。仏教の教えと禅の精神に基づいた幅広い教養をもとに、医用放射線分野の基礎学力とその専門知識・技術、さらに、それらを応用する力、主体的かつ協調的なコミュニケーション力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力・問題解決力を身につける教育を行い、豊かな人間性をそなえて医療人としての強い責任感を持ち医療技術の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学部の教育の理念とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p> <p>(概要)</p> <p>医療健康科学部は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部・学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕</p> <p>仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、医療人としての強い責任感と豊かな人間性を有している。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕</p> <p>社会に関する幅広い知識と、専門分野である医用放射線分野における確かな基礎学力と専門知識・技術の知識を身につけ、他の医療スタッフや患者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕</p> <p>多様な医療情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、ICT（情報通信技術）を活用し、問題を発見し問題解決に繋がるアイデアを出し、自ら行動することができる。</p>

きる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕
 レポートや論文等の内容理解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他の医療スタッフと主体的に協働することができる。また、外国語（英語）の確かな運用能力を有している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕
 診療放射線技師を目指すものとしての、診療画像および医用放射線科学領域における専門分野の知識・技能・技術を習得し、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
 公表方法：
 ・駒澤大学ホームページ
 (<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)
 ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI
 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能
 (<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)
 ・履修要項
 在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)
 医療健康科学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために、全ての学士課程の基盤となる教育の質向上を目指す「駒澤人育成基礎プログラム」を構築し、本学部・学科の専門教育科目とシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系的をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示す履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。
 教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。また、専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につけるため、「基礎数学、基礎物理学、基礎化学、情報処理技術」等の基礎科目を開講する。さらに、モチベーションを上げるための、少人数・ゼミ形式で行われる「科学基礎論」を開講する。
- 3) 専門教育科目では、診療放射線技師資格取得のため、診療放射線技師学校養成所指定規則に基づいて基礎分野、専門基礎分野、専門分野の科目を専門科目として配置する。多様化する診療放射線科学分野の学問領域に対応するため、2コース制を採用し、より各コースの専門性に特化した専門科目を体系的に配置し、先進性の高い教育内容を実現する。講義、演習、実験、実習、総合研究と多様な授業形態をとおして、基礎学力、応用力、問題解決能力を備えた医療人を育成する。専門科目として「医療宗教学」、「医療経済学」、「臨床医療人間学Ⅰ・Ⅱ」を配置し、幅広い視野をもった医療人を育成する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り

入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

- 3) e ラーニングシステム等の WEB システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 4) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

医療健康科学部では、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針に基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れて、学修成果の評価・測定を行うことを基本とする。学生個人が診療放射線技師に必要な基礎力と先進的な専門知識を備え、自ら考え行動できる医療人の素養を身に着けたことで判断するが、具体的には、GPA・成績分布状況、修得単位数、学生による授業アンケート、学修行動調査(学修時間等)、アセスメント・テスト(3年次)、医療人間学の単位取得率(3年次)、国家試験に相当する実力試験(4年次)、進級率等で評価する。

入学者の受入れに関する方針

公表方法：

- ・駒澤大学ホームページ

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html>)

- ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI

受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html>)

- ・履修要項

在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している

(概要)

医療健康科学部は、診療放射線技師を養成する学部である。診療放射線技師には医療人としての資質とともに、理工学的な基礎知識・学力が求められる。従って、大学では医学分野についてはもちろんのこと、放射線・放射能・画像のデジタル処理技術などさまざまな理工学的内容も学ぶ。このため、高校での数学、物理、化学の履修は極めて重要で、その基礎をしっかりと理解しておくことが必要である。この分野への強い関心、探究心をもった学生を求めている。

1. 医療健康科学部の求める学生像

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、本学部での学修に必要な基礎学力（特に、数学、物理、化学）を有している。〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、医療健康科学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

<p>学部等名 グローバル・メディア・スタディーズ学部</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p> <p>(概要)</p> <p>グローバル・メディア・スタディーズ学部は、グローバルな問題を多角的に捉える広い視野、複雑化したメディアを経由して大量のコンテンツが流れる仕組みの理解、固定した学問領域に捕らわれない自由な発想での研究の3つを柱とする。研究対象とする中心的な学問分野は、メディアやコンテンツの本質について学際的なフレームワークで理解するための礎となる学問領域、すなわち、人文科学系、社会科学系および情報学を含めた各学問分野である。ここで、情報学とは、あくまで人文科学、社会科学の範疇で理解しなければならない考え方、手法を中心とし、工学系分野に含まれるものは中心に置かない。具体的には、経済学、経営学、社会学、政治学、政策学、文化学、法学、コミュニケーション学、情報学といった既存の学問を基礎に置き、メディア、コンテンツを対象として応用する領域である。社会科学を中心とした理論的枠組みを学修し、多元的・複合的な視座と、幅広い自由な発想で、世界のメディアをとおして情報を発信できる人材を育成する。そして、グローバルリテラシーとしての英語力および情報メディア応用力を身につけ、グローバルな視点により物事の計画、設計および判断を行い、果敢に課題の解決に挑戦できる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI <p>受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p> <p>(概要)</p> <p>グローバル・メディア・スタディーズ学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕 仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。</p> <p>(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕 本学部の学問的基盤となる関連分野（経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学）の科目を学際領域的、多重領域的に履修し、新たな知の創造に結びつける力を身につけ、グローバル市民として多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕 理論と実践の両面から、グローバルな課題を見出して解決への道筋を追究するための情報分析力、論理的思考力、そして問題解決能力を備えている。</p>

<p>(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 十分な語学力、とりわけ、実質的なグローバル・コミュニケーション・ツールである英語を使いこなす力を備え、グローバルな環境において、レポートや論文等の文章読解・作成、およびプレゼンテーションを行い、自らの考えを論理的かつ明確に伝え、他者と主体的に協働する能力を備えている。</p> <p>(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕 本学部の8つの専門学問領域に基づいてメディアとコンテンツの本質を理解し、地球規模の問題解決に資する研究・分析・提案の能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html) ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要)</p> <p>学位授与の方針を満たす人材を育成するために、多様な専門科目の習得が可能となる柔軟な履修制度を採用し、学生の自主的判断で学習計画を作成出来るようなカリキュラムを提供する。グローバル社会の課題は、様々な分野の専門性を含んだ解決法が必要である。そのために、具体的には、グローバルなコミュニケーション能力の基盤となる英語力、および IT リテラシー能力を修得するための科目を設定したうえで、急速に変化しつつあるメディアとコンテンツの本質を理解し、それらを活用できるようにするために、種々の専門領域（経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、コミュニケーション学、情報学）にわたる学際的科目を配置する。さらに、これらの科目を基礎として、実践的な就業力を育成するための科目も提供する。</p> <p>1. 教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 初年次教育として、専門教育の基礎になる、情報リテラシー、メディアリテラシー、英語教育を必修科目として設定する。 2) 専門分野をより深く学習できる機会を与えるために、演習科目（ゼミ）を2年次から設定する。 3) 具体的な専門分野として、経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、コミュニケーション学、情報学等を取り上げ、その領域に関連する科目を系統的に選択必修科目として提供し、学際領域の基本とする。 4) 技術革新がめざましいメディアとコンテンツに理論と実践の両面からアプローチし、それぞれの理解を深めるために、コンピューター・グラフィクス、映像、ウェブコンテンツなどの分野の第一線で活躍するクリエイターを講師に招き、実践的なテクニックを修得できる授業を実施する。 5) グローバルな環境下で活躍するための必須能力である実践的英語力を修得させるために、外国人教員を中心とした少人数制の効果的な英語教育を実践する。 6) 海外留学先で取得した単位を卒業単位として認定するだけでなく、海外企業でのインターンシップ、海外でのボランティア活動に関しても、帰国後に研修証明書類を提出し、審査に合格したものは卒業単位として認定する（海外演習実践講座）。また、海外研修の準備学習と帰国後の振り返り学習についても、専門教育科目（Study Abroad）を通じて卒業必要単位として認定する。 <p>2. 教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本学部の特色である多様な専門科目を柔軟に組み合わせて履修できるようにするために、 Semester制を採用する。

<p>2) 長期・短期の留学、海外インターンシップなどの海外経験を可能とするために、幅広い専門分野の科目は、2年次以降柔軟に履修できるように設定する。</p> <p>3) 大学の外部との連携により産業界の今を知り、学生の就業力を高め、さらにはグローバル化社会における経済成長の一端を担うリーダーを育成するために、実務家と専任教員との共同授業を開講する。具体的には、最新のメディア、コンテンツ、IT、文化産業などに関わる現場から第一線で活躍する専門家をゲストとして招き、専任教員との共同作業による授業を実施する。</p> <p>3. 評価</p> <p>グローバル・メディア・スタディーズ学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、教育課程レベル（学部・学科）、科目レベル（個々の科目）の2段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学ホームページ (https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/policy.html) ・駒澤大学学部学科案内 2020 KOMANABI 受験生向け大学サイトにて取り寄せ可能 (https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html) ・履修要項 <p>在学生に教務部にて1人1冊必ず配付している</p>
<p>(概要)</p> <p>グローバル・メディア・スタディーズ学部は、地球規模の問題解決に自主的かつ積極的に取り組むことによって、グローバル社会の中核を担うことをめざす学生を求めている。地球規模の問題にアプローチするため、グローバル・メディア・スタディーズ学部では、メディアと英語を駆使したグローバルなコミュニケーション能力、世界を見渡す広い視野、情報の本質を見極める力を持った人材を育成する。したがって、地球規模の問題解決に強い関心を持ち、高等学校の基礎的な学力とコミュニケーション能力を身につけている学生を、多面的かつ総合的な視点によって選抜を行う。</p> <p>1. グローバル・メディア・スタディーズ学部の求める学生像</p> <p>(AP1) 高等学校の基礎的な学力を身につけていること。特に「英語」の基礎的な学力を身につけること。〔知識、理解、技能〕</p> <p>(AP2) 広く社会に目を向け、幅広い知識を養おうとする態度を身につけておくこと。〔意欲、関心、態度〕</p> <p>(AP3) 豊かな人間性と社会や学問に対する強い好奇心を身につけ、それらを深く考え、他の人との関わり合いの中でコミュニケーション能力を身につけておくこと。〔思考力、判断力、表現力〕</p> <p>(AP4) グローバル化に伴う諸問題に興味を持ち、4年間学んだ知識・経験を社会に出るから主体的に活用したいという意欲を持っていること。〔主体性、多様性、協働性〕</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：駒澤大学ホームページ>修学上の情報等>教員組織
<https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
仏教学部	—	18人	4人	1人	0人	0人	23人
文学部	—	51人	15人	4人	0人	2人	72人
経済学部	—	35人	10人	3人	0人	0人	48人
法学部	—	26人	8人	3人	0人	0人	37人
経営学部	—	26人	2人	2人	0人	0人	30人
医療健康科学部	—	8人	5人	3人	0人	0人	16人
グローバル・メディア・スタディーズ学部	—	14人	1人	7人	0人	1人	23人
総合教育研究部（教養部）	—	38人	21人	6人	2人	0人	67人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員			計		
3人		774人			777人		
各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）		公表方法：駒澤大学ホームページ>修学上の情報等>各教員が有する業績（研究者情報データベース） https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/study.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2019年度はFD推進委員会、FD推進委員会小委員会、学生FDスタッフで構成された組織で、FD憲章に基づいて活動を行っている。 昨年度（2018年度）は学生を対象に、授業アンケートや新入生アンケート、駒大生まるわかり調査、ベスト・ティーチング賞、学長との意見交換会などを行った。教職員を対象としてFD研修会を開催し、ルーブリックを用いた教育について、学びの場を提供した。 今年度（2019年度）も昨年度に準じた取り組みを行う予定である。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	192人	177人	92%	792人	830人	104%	12人	17人
文学部	826人	826人	100%	3404人	3733人	109%	50人	14人
経済学部	748人	715人	95%	3066人	3308人	107%	37人	42人
法学部	664人	660人	99%	2700人	2988人	110%	22人	8人
経営学部	525人	546人	104%	2142人	2357人	110%	21人	19人

医療健康科学部	60人	57人	95%	250人	260人	104%	6人	6人
グローバル・メディア・スタディーズ学部	300人	303人	101%	1230人	1384人	112%	15人	16人
合計	3315人	3284人	99%	13584人	14860人	109%	163人	122人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
仏教学部	179人 (100%)	9人 (5.0%)	145人 (81.0%)	25人 (14.0%)
文学部	853人 (100%)	33人 (3.9%)	697人 (81.7%)	123人 (14.4%)
経済学部	797人 (100%)	7人 (0.9%)	711人 (89.2%)	79人 (9.9%)
法学部	642人 (100%)	9人 (1.4%)	538人 (83.8%)	95人 (14.8%)
経営学部	554人 (100%)	1人 (0.2%)	484人 (87.4%)	69人 (12.4%)
医療健康科学部	66人 (100%)	6人 (9.1%)	54人 (81.8%)	6人 (9.1%)
グローバル・メディア・スタディーズ学部	329人 (100%)	2人 (0.6%)	293人 (89.1%)	34人 (10.3%)
合計	3,420人 (100%)	67人 (2.0%)	2,922人 (85.4%)	431人 (12.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 資生堂、三菱UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、日本生命保険、JR東日本、日本航空、全日本空輸、JT Bグループ、楽天、特別区				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
仏教学部	245人 (100%)	168人 (68.5%)	39人 (16%)	38人 (15.5%)	0人 (0%)
文学部	915人 (100%)	775人 (84.7%)	85人 (9.3%)	55人 (6%)	0人 (0%)
経済学部	846人 (100%)	701人 (82.9%)	101人 (11.9%)	44人 (5.2%)	0人 (0%)
法学部	766人 (100%)	551人 (71.9%)	147人 (19.2%)	68人 (8.9%)	0人 (0%)

経営学部	578人 (100%)	481人 (83.2%)	73人 (12.6%)	24人 (4.2%)	0人 (0%)
医療健康科学部	69人 (100%)	52人 (75.4%)	12人 (17.4%)	5人 (7.2%)	0人 (0%)
グローバル・メディア・スタディーズ学部	353人 (100%)	276人 (78.2%)	42人 (11.9%)	35人 (9.9%)	0人 (0%)
合計	3772人 (100%)	3004人 (79.6%)	499人 (13.2%)	269人 (7.1%)	0人 (0%)
(備考) 対象者=2015年入学者(編入学・再入学を除く) ※中途退学者には、除籍・死亡を含む ※中途退学者は、事務処理日(2015.4.1~2019.3.31)で回答					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 全ての授業科目について、前年度の11月に各教員に対し、「シラバス作成ガイド」に基づいたシラバス作成を依頼している。シラバスには、授業概要・到達目標(ねらい)・授業スケジュール・準備学修・成績評価の方法などの項目が含まれている。 作成されたシラバスは各学部学科主任等または各研究科の専攻主任による第三者チェックを経た上で、毎年年度開始直前の3月末に本学ホームページで公開され、学生ポータルサイトでも履修登録開始まで閲覧可能となる。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価において、GPA等の客観的な指標は、履修要項・大学HP・学生ポータルサイト等に掲載している。 ・成績は、各科目を「S A B C F 空欄 T」によって評価され、GPAが予め定められた方法によって算出される。 ・GPA算出式については、以下の通り設定している。 $\frac{S \text{ 修得単位数} \times 4.0 + A \text{ 修得単位数} \times 3.0 + B \text{ 修得単位数} \times 2.0 + C \text{ 修得単位数} \times 1.0}{\text{履修した科目の総単位数}(F \cdot \text{評価のない科目を含むが評価 T(認定)は含まない})}$ 成績の分布について、厳正化を図るため、ガイドラインにて、Sが5%、Aが30%程度と目標値を設定しており、成績評価登録時に科目担当教員へ分布を開示している。また、学部単位の成績分布については、教務部委員会にて報告されている。 卒業の認定にあたっては、事務局にて作成した判定資料を元に、2月各学部教授会において、ディプロマポリシーに鑑みて成績ならびに卒業の判定を行っている。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
仏教	禅学科	124	○	49
	仏教学科	124	○	49
文	国文学科	124	○	48
	英米文学科	124	○	48
	地理学科	124	○	49

	歴史学科	124	○	48
	社会学科社会学専攻	124	○	49
	社会学科社会福祉学専攻	124	○	49
	心理学科	124	○	49
経済	経済学科	124	○	49
	商学科	124	○	49
	現代応用経済学科	124	○	49
法	法律学科フレックス A	124	○	49
	法律学科フレックス B	124	○	49
	政治学科	128	○	49
経営	経営学科	124	○	44
	市場戦略学科	124	○	44
医療健康科学部	診療放射線技術科学科	135	○	56
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア学科	132	○	49
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：修学指導の基準として GPA を活用している。 駒澤大学進級規程 https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/files/shinkyukitei.pdf 履修要項（冊子）		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法： 駒澤大学ホームページ>教育研究上の情報 学修時間・学修実態 授業評価結果 学修成果 https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/educational-research.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：公表方法：大学ホームページ及び刊行物（大学案内「駒澤ライフ」「学部学科案内 KOMANABI」） 大学ホームページ https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/ 刊行物入手法：大学ホームページより WEB 申込み https://www.komazawa-u.ac.jp/exam/catalog.html または駒澤大学入学センターへ電話、メールによる問い合わせ</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	専攻名	授業料(年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
仏教			690,000円	200,000円	222,000円	その他に含むもの ①施設設備資金 195,000円 ②教育充実費 27,000円 ③実験実習料 15,000円 ④オリエンテーション費 24,000円 ※学科により一部異なる ※オリエンテーション費は入学時のみ
文	国文		690,000円	200,000円	222,000円	
	英米文		690,000円	200,000円	222,000円	
	地理	地域文化研究	690,000円	200,000円	237,000円	
		地域環境研究	690,000円	200,000円	237,000円	
	歴史	日本史学	690,000円	200,000円	246,000円	
		外国史学	690,000円	200,000円	246,000円	
		考古学	690,000円	200,000円	261,000円	
	社会	社会学	690,000円	200,000円	256,000円	
社会福祉学		690,000円	200,000円	222,000円		
心理		690,000円	200,000円	252,000円		
経済	経済		690,000円	200,000円	222,000円	
	商		690,000円	200,000円	222,000円	
	現代応用経済		690,000円	200,000円	222,000円	
法	法律フレックスA		690,000円	200,000円	222,000円	
	法律フレックスB		490,000円	130,000円	127,500円	
	政治		690,000円	200,000円	222,000円	
経営	経営		690,000円	200,000円	222,000円	
	市場戦略		690,000円	200,000円	222,000円	
医療健康科	診療放射線技術科		800,000円	200,000円	712,500円	
グローバル・メディア・スタディーズ	グローバル・メディア		790,000円	200,000円	222,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>本学で実施している学生の修学に係る主な支援に関する取り組みは、以下のとおりである。</p> <p>①学部教員が学生の相談や質問を個別に受けるオフィスアワーを設けている。</p> <p>②学生相談室にアドバイザー（専任教員）を配置し、「学業に関する相談」を行っている。</p> <p>③新入生に対する支援として、新入生オリエンテーションでは教員による学部学科の内容紹介をしている。また、初年次教育（1年次）では、全学部学科で「新入生セミナー」を開講し、少人数教育で「自立的」かつ「主体的」な学習態度を身につける授業を行っている。</p> <p>④修得単位数の少ない成績不振者等、一定条件に該当する学生に対しては、学部で教員面談実施、保証人へ単位修得状況を郵送するなど、修学意欲を促す取り組みを行っている。特に、新入生に対しては、一部の必修科目で出席状況を調査し、出席状況が思わしくない場合には、出席を促す通知の発送や教務部職員との面談を実施するなどして対応している。</p> <p>⑤図書館に、ライブラリー・アドバイザー（略称LA）という学修支援員を配置している。LAは、レポート・論文作成、プレゼンテーション方法、図書館資料の効果的な利用法などをアドバイスし、授業や研究における学修活動の発展をサポートしている。</p> <p>⑥障がいのある学生には、「障がい学生支援委員会」のもと、学生部学生支援相談課に専門知識を持つ支援コーディネーターを配置し、修学上の支援を実施している。</p> <p>⑦授業支援として、Webポータルサイト「KONECO」による履修登録のほか、休講情報・補講情報・教場変更情報・試験情報・掲示連絡などの情報提供を行っている。</p> <p>⑧ティーチング・アシスタントの制度を設け、本学大学院に在学する大学院生が教育の補助業務（実験・実習、演習等の補助、履修学生の学修相談及び指導）を行っている。また、「学</p>

<p>部等授業科目補助業務取扱基準」を設け、外国語科目やパソコン等の実習科目、医療関係の実験・実習科目などにおいて、主に上級年次の学部学生が授業補助を行い、教育の充実を図っている。</p> <p>⑨経済的に困難でも大学で学ぶ意欲のある学生を支援するため、経済支援を目的とした給付型奨学金を設けている。また、優秀な成績の学生に対する学業奨励を目的とした給付型奨学金も設けている。これ以外にも、主たる家計支持者の死亡等による家計急変時の支援、大規模自然災害被災学生への授業料減免など、学生が学業に専念できるよう、奨学金制度の充実に努めている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>日々個別相談を行っている他、キャリアセンター主催で様々な講座を実施している。</p> <p>まず、キャリア形成の向上を促すため低学年向けにキャリア講座を行っている。また、学生の自己理解と自己形成を踏まえた就職支援体制を整えている。3年生向けには就職活動への意識涵養、自己分析と業界研究や企業研究を進める支援として就職ガイダンス、就活集中セミナー、業界研究講座を行っている。就職活動が本格化する4年生向けには学内合同企業説明会を行い、企業との接点作りの機会創出を図っている。加えて、業界別就職試験対策講座、公務員試験対策プログラム、教員採用試験対策プログラムを用意し、各分野に特化した支援も行っている。</p> <p>講座だけでなく、仕事に対する考えや職業観を醸成するインターンシップの機会も作り、低学年向けには Internship & Creationship Study、東商リレーションプログラム、世田谷区学生交流プログラム、海外インターンシップを用意し、3年生向けには企業と提携し本学学生の受入枠を設けたインターンシップを行い、学生の進路選択の幅を広げている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>保健管理センターによる定期健康診断を行い、疾病の早期発見と予防に努めている。また、内科・精神科の専門医が曜日別に常駐し、体調不良やけがなどの応急処置、心身に関する相談に対応している。場合によっては、地域の医療機関への紹介も行っている。</p> <p>学生相談室カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）による「心理相談」、法律相談員（弁護士）による「法律相談」、その他様々な問題に対して相談助言を行う「よろず相談」等、個別にあるいは学部及び関連部署と連携を取りながら学生の相談に応じている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：公表方法：駒澤大学ホームページ>情報公開 https://www.komazawa-u.ac.jp/about/disclosure/</p>
--